

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立北八下学校
校長 石井 敬二

中学校区におけるめざす子ども像
自らを律し自ら学び続ける子

- 令和6年度 重点目標 「児童も先生も学び続け、変わっていく学校づくり」～意識を高めることで行動が変わる。行動を変えることで意識が変わる～
- ・安心・安全で信頼される学校づくり（人権尊重の観点に立った生徒指導、特別支援の観点、未然防止の生徒指導と初期対応）
 - ・ICTの推進と授業観のアップデート（学びのコンパスも意識）
 - ・学校運営への参画の意識（組織的な学校運営とホウレンソウ、支えあえる仲間〔職場〕づくり）

「確かな学び」の現状
 「主体的・対話的・深い学びのある授業づくり」を推進してきた結果、協働的な学びを通して、主体的に議論・討論に参加する機会が増えるなど、授業改善が進んでいる。一方で、全国値との比較等と参考にすると、より一層推進する必要がある。学習でICT機器の使用が必要だと思っている児童が約95%いる現状に対して、約5%の子どもが毎日使用しているにとどまっている。週3日でも約33%である現状を鑑み、ICT機器の使用頻度を上げていくことは次世代を生きていく児童にとっては急務である。

「豊かな心・健やかな体」の現状
 「学校教育アンケート」では、「あいさつをしている」の肯定的回答率は約9割で高い数値である。保護者アンケートの肯定的回答と開きがあり課題が残っている。「自分に良いところがある」の肯定的回答率が約79%である。自尊感情を高める集団作りや、自分の生き方を意識させるような取り組みにより、さらに向上していきたい。体育大会を通して、体を動かす喜びや集団で作り上げる楽しさを味わうことができた。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～〇月)	達成状況(年度末)		
								自己評価	学校関係者評価	
確かな学び	基礎基本の定着	生徒用端末を使うなどして、個に応じたきめ細かな指導を充実する。	各教科の基礎・基本の定着に向けて、定着の工夫や振り返りの充実を図る。	実施状況・成果を判断	すくすくウォッチや各クラスの校内テスト、IRT、アンケート、学習観察、実践記録等	年度末				
			多様な学習形態を工夫し、ICT機器の効果的な活用や教材教具を利用し、学習の定着を図る。	実施状況・成果を判断		年度末				
	授業改善	主体的に考える力を育成する。 一人ひとりの思考力・判断力・表現力を育成する。	子どもに問いかけを行い、自分で考えることを促し、児童自ら課題や問題を探求し、答えを見つけるプロセスを経験させる。	実施状況・成果を判断		年度末				
			生徒用端末（ICT）の積極的な使用と児童同士や教師との協働的な学びを通して意見交換や協力を促し、深い学びにつなげる。	実施状況・成果を判断		年度末				
		自主学習ノートや作文等通じて「書く力」を育成しながら子どもの表現力を高める。	実施状況・成果を判断	年度末						
豊かな心・健やかな体	豊かな心の育成	共に認め合い、支えあえる子どもの育成。 様々な感動体験を経験する中で自尊感情を高め自信を持てる子どもの育成	人権尊重と特別支援の観点に立ち、すべての教育活動の中で豊かな人権感覚を育てる取り組みを実践する。	実施状況・成果を判断	すくすくウォッチや各クラスの校内テスト、IRT、アンケート、学習観察等	年度末				
			仕掛けのある活動を通じて集団作りとリーダーの育成をすすめ、未然防止の生徒指導の実践を行う。特にいじめのない学校づくりに取り組む。	実施状況・成果を判断		年度末				
			行事や学級活動で、個々の活動実践を推奨し、その過程を支援・援助して自己肯定感や達成感を味わい、自尊感情を醸成する。	実施状況・成果を判断		年度末				
	健やかな体の育成	子ども自らが基本的な生活習慣を確立し、健康増進・体力を高める。	体育の授業、体育大会、クラブ活動等を通じて、楽しみながら運動する習慣を身につけ、健康増進を高めるための思考力を向上させる。	実施状況・成果を判断		年度末				
保健指導・食育を通して健康の大切さに気づかせ、家庭と連携を図り基本的な生活習慣を身につけさせる。			実施状況・成果を判断	年度末						
独自の課題	新たな学校	開かれた学校づくり	学校HP・学校だより等を通して家庭・地域への情報発信を行う。	学校協議会を年間3回実施	アンケート、実践記録等	年度末				
		新たな学校群・学校に向けての準備	★学校群を見据え、小中連携の推進、特に教員間の連携を進める。Society5.0を見据えた効果的な学び方・働き方へのチャレンジ	実施状況・成果を判断	実践報告、アンケート等	年度末				

校長より(年度末)

学校関係者評価者から(年度末)